議会だより もろっか

令和元年11月

令和元年 第163号
編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会

「荒谷小学校　秋季大運動会」

もくじ

一般会計補正予算 …… 2
決算認定 …… 3
一般質問 …… 4
総括質疑 …… 8
議会の動き、随想、編集後記 …… 10

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 ☎(0982) 65−1130

第３回定例議会 令和元年度一般会計補正予算

補正額：1億6000万円

合計34億1000万円

◆一般会計の主な補正内容◆

幼児教育・保育の無償化に対応

(単位)万円

「総務」	・給与システム委託	174万円
	・消防施設修繕	138万円
「企画」	・総合戦略、第6次総合長期計画策定事業	300万円
	・塚原発電所利活用基本構想事業	100万円
	・公民館・集会所等改修事業補助金	348万円
	・特産品開発協議会補助金	230万円
「住民」	・幼児教育・保育無償化対応システム改修事業	408万円
	・母子保健情報連携システム改修事業	119万円
「産業」	・牛舎改善事業	111万円
	・椎茸団地修繕事業（修繕料・原材料）	899万円
「建設」	・県単独治山事業	1,135万円
	・道路維持事業	300万円
	・村有住宅改修事業	130万円
	・林業施設災害復旧事業	1,850万円
	・耕地災害復旧事業（委託料、工事）	2,920万円
	・土木施設災害復旧事業（委託料、工事）	4,860万円
「教委」	・教員住宅修繕事業	138万円
	・中学校給食備品購入事業	583万円

◆特別会計の主な補正内容◆

「国保」	・総務費	43万円
	・諸支出金	100万円
	・予備費	489万円
「後期高齢者医療」	・予備費	129万円
「介護保険」	・諸支出金	680万円
	・予備費	931万円
「簡易水道」	・衛生費	172万円
「公共下水道」	・衛生費	283万円
「診療所」	・総務費	304万円
	・医業費	▲304万円
「発電」	・予備費	96万円

◆条例の制定等◆ （原案可決）

「企画課、教育委員会」
・諸塚村使用料及び手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定（消費税率変更に伴うもの）

「教育委員会」
・諸塚村立幼稚園条例の一部を改正する条例の制定（幼児教育の無償化に伴うもの）
・諸塚村奨学金貸与条例の一部を改正する条例の制定（幅広い学生に対応、定住による特別免除の改正）
「建設課」
・村道の路線認定について

平成30年度一般会計決算認定

令和元年第３回定例会

歳入額　35億1290万円

歳出額　33億7064万円

議会費	総務費	民生費	衛生費	農林水産費
4562万円	5億0695万円	4億0263万円	1億4153万円	8億1834万円

商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費
3371万円	4億4569万円	5579万円	2億4526万円	1億9481万円

★ 特 別 会 計 ★	
会 計 名	会 計 名
国民健康保険	3億2707万円
後期高齢者医療	3056万円
介護保険	2億3302万円
簡易水道事業	2636万円
公共下水道事業	1644万円
診療所事業	3億2876万円
発電事業	275万円
特別会計合計	**9億6496万円**

公債費

3億0465万円

総括意見

今日の世界情勢は、米中の貿易摩擦により世界経済に様々な影響を及ぼす中、日本国内では国土強靱化基本計画が示されてはいるものの、自然災害はその規模と被害はとどまるところを知らない状況にあり、想定範囲を遙かに超える事態も珍しくない。これはいわゆる地球温暖化に起因することは確かと思われる。近年本村においては、大きな災害がないのは幸いであるが、備えには万全を期さなければならない。

そのような中、本村の平成30年度一般会計決算は、歳入35億1,290万円、歳出33億7,064万円であり、前年度より歳入で1億5,809万円、歳出で1億2,025万円の減額決算となった。これは地方交付税の減額が主因であるが依存財源が約8割を占める本村にとっては、毎年が厳しい財政運営となっており、10月からの消費税の2%増税が今後どう影響してくるかも注目されるところである。

主財源となる地方交付税の減額決算の中で、若者定住環境の住宅建設、子育て支援対策としての保育所建設、産業振興、福祉政策等、積極的な事業を展開すると同時に、公債費も順調に償還するなど村民経済に大きく寄与する政策を評価するものである。

依然として人口減少をはじめ、厳しい財政状況が続く中で、更なる行財政運営に努めていただき、地域活力の向上に期待したい。

決算審査特別委員会の様子

個別意見

1．人口減少対策への取り組み
2．基金の有効活用
3．国土強靱化対策への積極的な取り組み

一般質問

今回五名の議員が質問をしました。

①黒岳の鹿食害について

尾形浩一議員

尾形浩一議員

問 黒岳の現状は、鹿の食害がひどく、キレンゲショウマは花を殆ど喰い尽くす状況でした。他にカゴダキの展望所周辺も鹿が嫌いな植物だけが繁殖している。県内でも希少な植物が生育する場所であり対策を講じるべきと思うが、村長の考えを伺います。

西川村長

答 対策には鋭意努力をしています。毎月の巡回確認を行い、カゴダキの保護ネットの範囲を広げるための補正予算も計上しました。

①標高による造林方法について

山本多喜弥議員

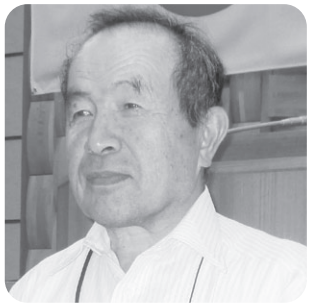
山本多喜弥議員

問 現在、田畑が獣害にあっていますが、その対策として、山の標高によって、たとえば１０００ｍ以上は天然更新して造林できない、８００ｍまでは半分造林、それ以下は造林できる、その様な事はできないでしょうか。動物が成育できる場所を作ってやる様な事はどうかお伺いします。

西川村長

答 諸塚村の山は中腹から尾根にかけて地形が比較的よいことから、林家の所有規模や形態などから制度化は難しいかと思いますが、モザイク林層的な多様性のある森づくり、野生生物の共生森づくりの普及、推進、ルールの検討は必要と思います。

①林業問題について



梅田義輝議員

梅田義輝議員

問 今のままでは野生生物が出てくると思いますので、十年後二十年後を見据えてできないかを思っておりますので、よろしくお願いします。

問 ①自伐型林業の推進最近全国的に自伐型林業が話題となっている。本村においては、分収林契約の関係、国策による事業体林業へのシフト、などの理由から、皆伐方式が目立っているが、自伐型林業による長伐期施業を組み合わせることで、諸塚村に適地適木の理想的な山が出来るのではと思います。自伐林家への支援策を充実させることで、何よりも人口減少対策にもなると期待するところです。村長の考えをお伺いします。
②森林組合加工場の今後
森林組合加工場の老朽化が進んでいると聞く。日向市の中国木材とのコスト競争や人手不足、人材不足、さらには資金面などを考えると、前途はきわめて厳しいことが予測される。基本的には森林組合が主体的に考える問題ではあるが、村の木材産業全体にかかわる問題でもある。村長の考えをお伺いします。
③バイオマス産業
国のバイオマス産業計画は日々変化している。現在のバイオマス発電計画の中間結果と今後についてお伺いしたい。

西川村長

西川村長

答 ①機材への支援は国県の支援策がなく、無利子の林業・木材産業改善資金の活用に頼る状況かと考えています。村単独事業も現在の財源が厳しい中、高額となる支援のため、他の補助金とも精査し、検討したい。

②原木入荷の減少、従業員の確保、売上げ実績など、大変厳しい状況にあると聞いております。近日中に森林組合長においでいただき、現状の話しと意見交換の場所を設けることとしておりますので、率直に話しをさせていただこうと考えております。

③国の地域内エコシステム構築事業に申請し、第2次審査のヒアリングを受けたところですが、不採択の通知が届いたところです。今後も調査、研究を進めていきたいと思います。

問　林業立村としての発信を、もう少し強力にやっていくべきと感じていますので、よろしくお願いします。

西川村長

答　昨年の実績は、延べ1200人で約600キロを実施していただいており、道路維持管理コストの低減に貢献していただいております。また、ウッドピア諸塚に103キロ委託しています。これからも自分たちの地域は自分たちで守ることで取り組んでいただき、村としての維持管理はしっかり行っていく所存です。

②公道維持管理について

梅田義輝議員

問　道路維持管理補助金については、大変有難いとの感謝の気持ちが伝えられている。しかしながら、人口減少が続く中、集落での管理は困難な時代がせまっている。今後の道路維持管理をどのように考えるかお伺いします。

西川村長

答　昨年の実績は、延べ1200人で約600キロを実施していただいており、道路維持管理コストの低減に貢献していただいております。また、ウッドピア諸塚に103キロ委託しています。これからも自分たちの地域は自分たちで守ることで取り組んでいただき、村としての維持管理はしっかり行っていく所存です。

③バス運営、運賃助成の見直しについて

梅田義輝議員

問　過疎化、高齢化による、人口減少が続く中バス運行は、村民のかかせない重要な足となっている。しかしながら近年の人口減少から、運転手の高齢化、運転手のなり手不足など、バス運行を取り巻く環境は年々厳しさを増している。村民の重要な足となっているだけに問題は大きくなる、早めの対応をお願いしたい。村長の考えを伺います。

西川村長

答　運営の補助としては、廃止路線代替バス運行補助金として、1260万円の補助を予定しています。運賃の助成については、バス通学生に対して、年間400万円ほど補助を行っています。現在、民間で運営していただいていますので、今後バスの運営補助を含め、会社の運営状況を確認しながら、検討していきたいと考えております。

①特別捕獲隊の職業化について

甲斐光徳議員

甲斐光徳議員

問　鳥獣被害は全国的な問題であり、本村でも猟友会を中心とした有害駆除の実施や新たに結成された特別捕獲隊による駆除も実施されているが、被害は決して減少しているわけではない。農作物への被害が増す中、特別捕獲隊の役割は大いに期待できる。猟友会の高齢化に伴う対策として、いち早く職業化としての考えも重要な政策の一つである。村長の考えを伺いたい。

西川村長

答　特別捕獲隊は平成29年に発足し、現在11名で活動している。捕獲日数を増やすことは検討していくが、現行の捕獲、防護の制度を利用しながら猟友会の意見を確認し、効果の出る方法で対応していきたい。

問　有害駆除・一斉捕獲等を実施しているが短期間での実施であり、個体の減少とまではいっていない。捕獲日数を増やすことにより個体の捕獲も効果がある。結成された特別捕獲隊の頑張りに期待したいと考えるが。

答　平時に対応できる趣旨から、特別捕獲隊は結成された経緯がある。被害が出れば早急に対応できるが、各自仕事があり全員そろうことは難しい。専任できる方もいるが負担が大きい。猟友会、捕獲隊も含めて話し合っていくべきと思う。

②みやざき林業大学校の支援について

甲斐光徳議員

問 美郷町の林業技術センターに今年度から、林業の振興と担い手確保を目的として開講された。本村からも4名入校し日々研修を受けている。林業立村を掲げる諸塚村も担い手の確保は大変重要である。本村で就業を後押しするような制度等の検討も必要。村長の考えを伺いたい。

西川村長

答 林業大学校の支援は、実習の場や村営住宅の提供、交通費の助成等を予算化した。大切なことは、今後の就職活動である。本村に就業したときには、現行の担い手対策事業を活用し支援を行っていくと考える。

問 近隣町村も就業を後押しするような制度も事業化している。美郷町では住居を町内に置き就業したものには年間27万5千円を給付し米も配布している。林業立村として掲げた以上は、第一期生の学生にインパクトのある就業を後押しするような対策も強く求めていくことも必要

答 諸塚村も総合的に考えている。各種補助事業、支援事業をトータル的に考えると、他町村にひけはとらない。後継者確保や人口減少につながるような施策を展開していると思っている。

③諸塚村の産業振興政策の将来展望について

甲斐光徳議員

問 諸塚村は林業立村として、椎茸・木材・畜産・茶、園芸を組み合わせた複合経営に取り組んできた。椎茸・茶においては価格の不安定など生産者の意欲の低下や、高齢化や担い手等の確保など全ての産業において先細りするような傾向にある。人口減少という大きな事態が予測される中で、生産者が安心して働き、第一次産業に従事できる将来の方向性を見いだしていくことが重要な政策と考える。

西川村長

答 村内産業で椎茸価格の低迷がある。これ以上は下がることはないが、生産者・問屋と一緒になって消費者離れ対策に取り組むことが大事である。流通に乗せると価格の低下等のデメリットや直販事業とも連携し対策を検討したい。村としても、現在の各種補助事業を検討・継続し関係機関と協力し、経費、収益等を再度確認し適正な複合経営に生産者一体となって取り組む。

問 椎茸生産者の平均年齢も66歳であり、5年先、10年先には接種する生産者も減少してくる。産業振興政策の中で、一番重要なことは後継者も含めて、新規参入の取り組みが必要と考えるが。

答 人口減少による縮小社会の中で、産業を維持していくことは、個々の意識の持ち方や取り組みにかかると思う。現存する各種補助事業を有効に活用し頑張って取り組んでいくことが肝要と考える。

①農林業機械導入補助事業について

岩本國和議員

岩本國和議員

問 諸塚の産業は、四大産業である木材・椎茸・茶・畜産そして施設園芸の複合経営が中心となっています。その産業の先行きに影を落としているのが、人手不足です。年々働き手は高齢化しています。諸塚の農林業は小規模経営であり、補助事業にも取り組めない状況です。今後、諸塚の産業維持の為にも、自営農林家の機械化は必要になってきますが、機械導入には高額で経営を圧迫します。諸塚村の産業を支える為にも、村単独の補助事業を行うことは出来ないか、村長の答弁を求めます。

西川村長

答 本村の主要産業については、機械化は必要な案件だと考えております。機械化補助については、他の補助事業との調整も含め、各方面からの意見のお伺いし、他町村の状況も研究しながら、慎重に検討していきたいと思います。

問 村長が、「残ってい

る我々が良い思いをするような村づくりをしなければいけないと」言いますがそういう方向性のためにも、是非考えていただきたいと思います。

②林道小原井・財木線の舗装補修について

岩本國和議員

問　林道小原井・財木線は、約60町歩の大規模伐採が3～4年かけて行われ、その影響で、道路舗装被害が、至る所でおきています。この道路は、椎葉・五ヶ瀬・熊本方面への連絡道であり、災害時の迂回路としての機能も果たし、生活道としても大切な道であります。その道路が、疇躇するほど傷んでいます。一刻も早く元の状態に直していただきたいと思います。村長の答弁を求めます。

西川村長

答　当路線での損傷が激しい箇所は延長7．6キロほどあり、全ての箇所を補修するには多額の工事費を必要とするため、財政的にもすぐには着工できない状況です。当面重機班による砂利での損傷箇所の復旧を基本にし、舗装・補修工事が可能な補助事業も検討しながら、少しでも早く路面修復に努めたいと考えます。

③柳原バス停から中学校への通学路について

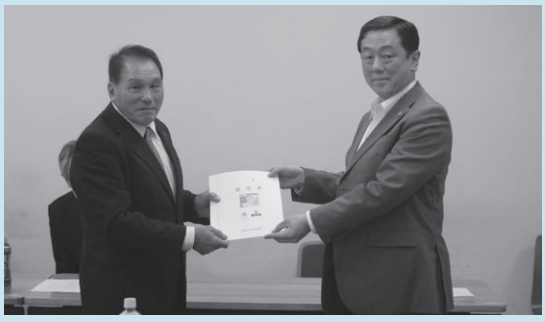
岩本國和議員

問　柳原バス停から中学校までの通学路が危険であり、ガードレールの設置を民生児童委員から要望があり、所管事務調査をした経緯があります。構造上ガードレールの設置は出来ないとの事でした。柳原は交差点でもあり、危険度は高いと思います。バス停を中学校正門付近に移し、通学路も旧柳原橋を利用してはと考えます。村長の答弁を求めます。

西川村長

答　現在、柳原バス停の交差点付近で先生方が、また榊原所長のご協力によりまして、児童生徒が安全に登校できるよう、安全指導を行っていただいております。通学路点検では、県道への表示板の設置や路面への凸凹の設置などの意見が出されました。今後、通学路安全推進会議の中で検討したいと考えております。バス停の移動につきましては、本村の公共交通会議の中で検討を行えば、可能なようです。

国・県への要望活動を行いました。



林野庁及び国土交通省

宮崎県環境森林部等本庁

東臼杵農林振興局等県出先機関

江藤農林水産大臣を表敬訪問

歳入歳出決算に対する質疑応答
（総括質疑）

そこが聞きたい

①せせらぎの里について（田原）
せせらぎの里については、きつい現場の中ででも、風通しのいい明るい職場でないといけない。せっかく職員が入られてもやめていかれる方がいたら、介護の現場に村民の方々の不安も出て来ると思うが。

村　長
福祉施設関係はもう日本全国的に、業務上の重労働とかいろいろあり入れかわりが激しいのも御承知のとおりである。組織というのは和で成り立つ。そこら辺の指導を継続して続けていきたい。

②地域バス運行について（尾形）
地域の皆さんが年に１回、宮交に乗れば補助金が継続することを聞いている。皆さんに利用を呼びかける必要があるのではないかと思うが。

村　長
可能な限り利用するようなことを、再度検討してみたい。

③平成 30 年度の一般会計について（甲斐）
所得の向上、医療・福祉の充実にどのようにして取り組んでいくのか。

村　長
村民の皆さんの意向に添うような形で、厳しい財源の中で、身近な物から片付けていきたい。生活・生産基盤の整備等併せてコスト削減につながる仕事、働きやすい生活しやすい環境づくりを進める。次年度以降、知恵、工夫を今以上に絞っていかなければならない。

④執行率について（甲斐）
一般会計の執行率が、91.4％となっている。限られた予算の中で効率よい執行の成果と思うが、副村長としての分析は。

副村長
繰越額を含めると97.4％の執行となる。過去5年間の平均では97.04％となることから、平成30年度は最も高い執行率となっている。

⑤執行状況について（甲斐）
未執行はないか。

副村長
執行状況一覧を作成し、各課が執行する案件ごとに確認しているが、未執行はない。

⑥職員の能力や仕事状況について（甲斐）
職員の能力や仕事状況を確認するのは、事務方の責任である副村長の役割と思う。優秀な職員がいる中で最大限の効果を出せる人材育成が必要と考える。平成30年度の一年間を通して、副村長から見た思いは。

副村長
今後も適正な指導を含めて、優秀な人材が育つように努力していく。

⑦教育行政について（甲斐）
平成30年度は、諸塚村の社会教育の見直し等を含めて、県派遣による社会教育指導主事を配置した。素晴らしい人格の持ち主であり、村民からの厚い信頼もある。諸塚村と村民がどのような方向に進むべきなのか、教育長の考えを伺いたい。

教育長
職場でも地域社会でも人というのは一番基本。ふれあい教育、助け合い、皆で支え合っていくような社会を作ることが必要と考える。今後も大きな方針は引き継いでいきたい。難しい問題であるが、県の教育委員会と連携しながら取り組んでいきたい。

⑧林業問題について（尾形）
現在の状況が悪いとの認識が広がり過ぎている気がする。今一度、全員で力を合わせて頑張りましょうと言う気風を作れば良いと思うが。

村　長
現状を憂えるばかりでなくて、ここら辺は鼓舞していく必要があると思う。

そこが聞きたい

⑨地方債と基金について（梅田）

地方債と基金の残高の現状はどうか。

総務課長

地方債については、３０年度末残高で２９億６,４２７万４,０００円。
基金については、８月末で３８億２,９２５万８,０００円

⑩みちゆき推進事業について（岩本）

現在は、イベント企画とか、大きな予算がついているが、今、どのぐらいの効果をあげているのか。

企画課長

その効果の部分については、難しいところである。参加している皆様のほうの努力も必要。今後の人口減少対策、福祉対策として非常に不可欠な問題と考えているので、積極的に進めていきたいと思っている。

⑪森林を守る雇用拡大事業について（岩本）

ウッドピアでも働き手が不足をしているという状態の中で、雇用の実績と今後どのようにして雇用数を守っていくのか。

産業課長

福利厚生関係の支援と一緒に、森林組合・ウッドピア等の職員募集の資料、パンフレット等の作成にも充てている。適正な雇用数というような数値は明確に出ていないが、実績は出ている。

⑫ドローンの活用について（岩本）

ドローンを購入しているが、将来ドローンをどういうふうに活用していくのか。

産業課長

林地、田畑の確認調査関係や災害調査時の確認や延焼状況の確認、そういうものに使いたい。

⑬ふるさと納税について（中田）

今後のふるさと納税についての考え方と、目標も含めたものがあれば示してほしい。

総務課長

返礼品については、地元産ということで、限りもある部分もある。これを拡大するということについては、難しい面もあろうかと思う。
インターネットを通じてふるさと納税等を募集しているが、窓口を広げる方法を、今年度から取り組んでいきたい。

⑭フッ化物洗口のその後について（田原）

フッ化物洗口が始まって二、三年経過した。虫歯を減らすためには、フッ化物洗口では虫歯は減らないだろうという、きちんとした結果も示されているが、フッ化物洗口をしたことによって、虫歯の罹患率が減ったのか。

住民福祉課長

今の状況としては、まだ全然変わっていない。全然人体に影響がない状況で、ドクターのほうも県のほうも推進しているので、これについては、希望をとりながら今後もやっていきたいと思っている。

教育長

フッ化物・歯磨きを当面は二本立てでやっていって、国・県等の動きも見ながら、有害であるというようなことがあれば今後もうそれはやめるということも考える必要があるというふうに考える。

⑮諸塚村の特産品販売について（岩本）

海幸・山幸が来年で終了の予定と聞く。今後、特産品の販売所の検討が必要。また、森の恵みのスープ料理コンテストで出品されたものについて商品化はできないか。

企画課長

村内の飲食店等に話してあるが、まだ実現されていない。

五月会研修会の様子

議会活動報告

月	日	内容	参加者	場所
8	1	入郷地域開発期成同盟会要望活動	議長	宮崎市
		正副議長研修会 地方行政問題研修	議長 副議長	宮崎市
	2	九州中央自動車道沿線議会期成会総会	全員	延岡市
	3	more trees トリエンナーレ2019(～4日)	議長	北海道
	7	議会運営委員会	全員	役場
	10	国道327号方川谷トンネル開通式	全員	松の平
	19	第2回臨時議会	全員	議場
		国道503号期成同盟会総会	全員	五ヶ瀬町
	20	九州中央自動車道整備促進地方大会	議長、副議長、産建委員長	熊本県
	22	県庁等要望活動	全員	宮崎市 延岡市 日向市
	26	市郡議長会出先機関への要望活動	議長	延岡市・日向市
	28	議会運営委員会 五月会研修会(土木・林務駐在)	全員	役場
	30	林活議連役員会・研修会	梅田議員	宮崎市
9	2	五月会研修会(民生児童委員・寿会連合会)	全員	中公
	3	議会運営委員会 議会全員協議会	全員	役場
	11	第3回定例議会開会(～20日)	全員	議場

月	日	内容	参加者	場所
9	12	決算審査特別委員会	全員	役場
	13	決算審査特別委員会	全員	役場
	17	決算審査特別委員会	全員	役場
	19	決算審査特別委員会(とりまとめ)	全員	役場
	20	第3回定例議会本会議(最終日)	全員	議場
	24	国土交通省・林野庁への要望活動	全員	東京都
	25	連合所管事務調査	全員	川崎市
	30	郡議長会研修会	全員	日向市
10	1	国道5路線現地調査	議長、産建委員長	村内
	2	人口減少対策特別委員会	全員	役場
		五月会研修会(WP、JA、森組)	全員	役場
	3	町村議会議員特別セミナー(～4日)	産建委員長	滋賀県
	10	県町村議長会臨時総会・議員大会	全員	国富町
	11	県土整備部要望活動	議長、産建委員長	宮崎市
	17	第3回臨時議会	全員	議場
		国道5路線要望活動	議長	宮崎市
	29	林活議連九州大会	全員	長崎市
	30	九州地方整備局への要望活動	全員	福岡市
		連合所管事務調査	全員	熊本県
	31	北部広域行政事務組合議会	総務・産建委員長	延岡市

随想

「気になること」

尾形　浩一

秋が深まり、過ごし易い季節になって来ました。皆様方、ご健勝にてお過ごしの事と存じます。

最近の気候変動が大変な事になりつつあります。台風19号が、甚大な被害を東海、関東、甲信越、東北にもたらしました。普段のコースとは違い首都直撃のコースで、強い勢力を保ったままに上陸。雨も尋常でない振り方で被害の全容が未だに把握出来てない状況です。これから益々強い台風が発生する予想が出ていますので、気を付けたい所ですが自然災害に対する手だても限られた事しか出来ず困ったものです。

被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げると共に一刻も早い復旧を、お祈りいたします。

議会傍聴してみませんか？

第4回村議会定例会は、12月6日(金)開催予定です。お気軽にお越しください。

お問い合わせ：議会事務局
☎65－1130(直通)

編集後記

秋は食べ物が豊富にあります。稲刈り、椎茸原木おろし、古ホタ整理、茶の選定等大変忙しい時期でもあります。

一方では、クマバチ退治、蜜蜂採取等、一時期この村から人口が減る時期でもあります。早朝からある場所に集合し、「クマバチがついとらにゃええが」・「悪代官するなよ」等話題豊富に出発しいざ収穫するが、案の定「クマバチがついとるわい」・「こりゃ逃げとるわい」と期待外れに少しがっかりしながら帰路につき反省会。

「来年は絶対入るから大丈夫」と言い聞かせながら終了。自然相手にはかないません。(甲斐)

(編集委員)山本多喜弥　尾形浩一　甲斐光徳　田原尚美